

文化情報誌

たわわ

2021
No.112

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



絵を見ておしゃべりしませんか？

ひらビあ一つま〜れ

誰かとおしゃべりしながら美術作品を鑑賞したことはありますか？

美術鑑賞というと、美術館で1つの作品を1人で静かにじっくり見ることを思い浮かべるかもしれませんが、作品を見て、話をしながら鑑賞するという方法もあるのをご存知でしょうか。これを「対話による美術鑑賞」といいます。

この「対話による美術鑑賞」を専門に活動するボランティアチームが、平塚市美術館にあります。その名も「ひらビあ一つま〜れ」。通称「ひらビー」ですが、市民のみなさんからは親しみを込めて「ひらビーさん」と呼ばれています。



対話による美術鑑賞の様子

「対話による美術鑑賞」では、1つの美術作品をグループでじっくり見て、その場で気づいたことや感じたことを自由に自分の言葉で表現します。ひらビーさんは、作品と鑑賞する人の間に立ち、作品を見る人の話から、絵の中のどこでそう感じたかを聞いていくことでより深く作品を見ることを促していきます。

令和2年8月、平塚市美術館でひらビあ一つま〜れのメンバーを新しく募集するための活動体験会が開かれました。

その日は参加者が5人1組となり、実際に「対話による美術鑑賞」が行われ、ひらビーさんが選んだ1枚の絵について、5人それぞれが気づいたことや感じたことを言葉にしました。

参加者からは、「段々ワクワクする気持ちになりもっと話したいと思いました。」や「アートってこんな風楽しんでもいいんだ。」等の声がありました。

自分では気づけなかった視点の話が飛び交い、どこかにある正解を探すのではない、グループでじっくり作品を味わう「対話による美術鑑賞」ならではの体験となりました。



活動体験会の様子

ひらビーさんの主な活動場所は美術館と市内の小学校です。

小学校では、美術館が作成したゲーム感覚で鑑賞ができるアートカードを用いて授業が行われ、その後美術館を訪れて、本物の作品を見ながら「対話による美術鑑賞」を行います。

この活動を通じて子どもたちから気づかされることは多く、「普段、授業中にあまり発言しないように見える子どもが、対話による美術鑑賞では積極的に発言することが1つの驚きです。自分で考えたことを絞り出して答えるような場面に出会えます。」「子どもたちは、大人が全く想像しないようなことを感じ取っています。その感性はとても素晴らしいのだと伝えてあげたいという思いが根本にあって、この活動をつづけています。」とひらビーさんは言います。



美術館作成のアートカード

メンバーが「ひらビーさん」の活動を始めたきっかけは、子どもが通う小学校からもらってきたチラシを目にして興味を抱いたり、美術館で子どもと関われる活動に興味があったりと、人それぞれです。

様々なきっかけで集まったメンバーですが、活動する中で得られるものは大きく、「対話による美術鑑賞は子どもが持っている可能性を引き出す1つのきっかけとなります。」「何より、子どもたちが美術を楽しむ姿を目の当たりにできることが魅力です。」とひらビーさんは言います。

美術館では不定期で来館者向けにもひらビーさんによる対話による美術鑑賞会「おしゃべり美術館」が開かれています。この機会にぜひ1度「対話による美術鑑賞」に触れてみてはいかがでしょうか。

【プロフィール】

「ひらビあ一つま〜れ」は、平成27年から活動している、対話による美術鑑賞専門のボランティアチーム。

「ひらビ」には「ひらかれた美術館」「心をひらいて対話をしよう」というメッセージが込められており、平塚市美術館の愛称でもある。また、「あ一つま〜れ」には、「ARTS（アート：美術）」と「MARE（マーレ：海）」と「集まる」という3つの言葉が込められている。

ひらつかの文化財を知ろう ㊉ (最終回)

古典文学と平塚

平塚市域は古代、相模国大住郡に属し国府が置かれました。国府には都から国司が派遣され、国務にあたりました。国司には、守、介、掾、目の四等官があり、古典文学上には、この相模国の国司に関連した著名人が登場します。

平安時代の元慶2(878)から3(879)年まで在原業平が相模権守(権は正規の員数外で仮の意味)として赴任します。歌物語『伊勢物語』の主人公と言われ著名ですが、「東下り」の段は都から駿河国を経て隅田川への道中が舞台で、相模国の通過を想起させ興味深いものです。

10世紀中頃までに成立したとされる歌物語『大和物語』144段では、在原滋春(業平の息子)が箕輪の里で読んだ歌として「いつはとは わかねどたえて 秋の夜ぞ身のわびしさは 知りまさりける」が登場します。「身のわびしさ」に「箕輪」を掛けています。箕輪の前には小総(おぶさ 現国府津付近) 駅の歌があり、共に古代東海道の駅家を指しているものと考えられます。

駅家とは、五畿七道に設置された施設で、16Kmごとに

馬などが配置され、古代東海道の通る平塚市域に箕輪駅があったと考えられています。

歌集『相模集』で著名な歌人相模は、藤原公資の妻で、公資は寛仁4(1020)から万寿元(1024)年まで相模守として赴任しました。彼女は夫と共に下向し、伊勢原の日向薬師に参拝して「さして来し 日向の山を 頼む身は 目も明らかに 見えざらめやは」という歌を残しています。同じ頃『更級日記』の作者菅原孝標の女は父の国司の任期が終わり、上総国から都へ帰国しています。彼女は寛仁4年に上総国を発ち、武蔵から相模のもろこしが原、足柄を通過します。国司の通行ですから、相模国府にも立ち寄ったことは十分考えられ、下向する歌人相模とすれ違ったか、出会った可能性があります。

このように、国府と古代東海道の絡んで、平塚は著名な文学作品とも関係が深いのです。

(文化財保護担当)



両側に並行する側溝を持つ
古代東海道
(東中原E遺跡 東中原
一丁目 現西友平塚店)

リトアニアだより(12)

杉原千畝で広がるリトアニアとの交流

2020年は杉原千畝氏の生誕120周年、『命のビザ』発給から80周年という節目の年であったことから、リトアニア国内では『スギハラウィーク』として杉原氏に関する様々な事業が実施されました。

その中で最も大きなイベントが、平塚市と交流を続けているカウナス市で10月に開催された『スギハラウィーク』。



『スギハラウィーク』のオープニングセレモニーで登場した“平和”を象徴するオブジェ

杉原氏を絆としてリトアニア人、ユダヤ人、日本人が心を寄せ合い、平和と人道をテーマとして交流関係を育むことを目的に、コンサートやセミナー等たくさんの取組が行われました。リトアニア国内外から集めた1万羽の折り鶴で“平和”を象徴するオブジェを作るというプロジェクトには平塚市からも参加。2019年にリトアニアで公演を行った「相州平塚七太鼓保存会」のメンバーがた

くさんの折り鶴を作成し、カウナス市へ送りました。一方、リトアニア国内のイベントに呼応するように、平塚市では11月に『リトアニアウィーク2020』を開催しま

した。会期中に展開されたリトアニアの魅力を広める多くの取組の中で特に注目されたのが、2015年に一般公開された映画『杉原千畝』の上映会。本編上映前には、特典としてカウナスの『杉原記念館』からのビデオメッセージも放映し、会場には当初の定員を大幅に超える約260人の市民が集まりました。当日は駐日リトアニア共和国特命全権大使夫妻も会場を訪れ、杉原氏の人道性に触れる時間を市民と一緒に共有しました。

また、リトアニアとオンラインで繋ぎ、カウナス日本友好協会のオウレリウス・ジーカス会長から『杉原千畝とリトアニア』というタイトルで講義をいただくなど、杉原氏の功績について多くを学びながら、リトアニアに対する興味関心を深めることができる一週間となりました。

杉原氏が教えてくれた人道的な精神を胸に、今後も平塚市民とリトアニア国民が心通わせる、温かみのある交流をしていきたいですね。



多くの市民が集まった映画『杉原千畝』上映会

足もとの星座たち 第12回 (最終回)

平塚駅周辺の商店街に設置された星座絵タイルを紹介する「足もとの星座たち」は今回が最終回。最後は秋から冬の夜空に見られるケフェウス座とさんかく座を紹介しましょう。

ケフェウス座は、ギリシャ神話に登場する古代エチオピアの王（現在のエチオピア連邦民主共和国とは関係がありません）で、第6回で紹介したカシオペアの夫、第5回で紹介したアンドロメダの父です。アンドロメダ姫とペルセウス王子の物語に登場するわけですが、何をしたわけでもなく…非常に影が薄い王様です。

そのせいか、夜空でもあまり目立ちません。最も明るい星は2等星で、形は削った鉛筆のような五角形でわかりやすいのですが…。北極星の近くに位置しているため、一年中沈まない“周極”星座です。鉛筆の底(?)のあたりに輝くケフェウス座ミュー星は、別名ガーネット・スターと呼ばれ、双眼鏡や望遠鏡では朱色に輝く非常にきれいな姿を見ることができます。

さんかく座は、古くから伝わる星座ではありますが、これといった神話は伝わっていません。一説にはナイル川の三角州（デルタ）を表すとも言われています。実際、ギリシャ文字のデルタ（Δ）に形が似ていることから、古代ギリシャではデルトートンとも呼ばれていました。

さんかく座はとても小さな星座ですが（大きさの順位は88星座中78位）、周辺に明るい星がないので意外と目立ちます。ただ3等星2つと4等星からなるので、平塚の街中ではなかなか見つけるのが難しいかもしれません。アンドロメダ座のガンマ星アルマクとおひつじ座のアルファ星ハダル（いずれも2等星）のちょうど真ん中に位置しているため、位置の見当はつけやすいと思います。さんかく座には、M 33と呼ばれる、空が暗い場所であれば肉眼でも見られる銀河があります。天の川銀河やアンドロメダ銀河とともに局所銀河群と呼ばれるグループをつくっている銀河です。



ケフェウス座の星座絵タイルは公園通

り、銀座通りとの交差点からやや北に行ったところに4枚、さんかく座の星座絵タイルは大門通り、NTT東日本のビルの裏手に1枚、設置されています。ぜひ探してみてください。

(平塚市博物館学芸員)

さんかく座銀河M 33
NASA, ESA and M. Durbin, J. Dalcanton and B. F. Williams
(University of Washington)



ケフェウス座の星座絵タイル



さんかく座の星座絵タイル

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。

基金に御寄附いただいた方々

(2020.12.31現在。敬称略)

2020年12月10日

竹遊会



戸お家で楽しむ文化芸術戸

ご自宅で気軽に文化芸術を楽しんでいただけるように、本市に縁のあるアーティストの皆さんが作成した動画を配信しています。心と体のリフレッシュにぜひお役立てください。

右の2次元バーコードからアクセスできます

検索ワード



発行 平塚市文化・交流課 | 〒254-8686 平塚市浅間町 9-1

電話 0463-32-2235 FAX 0463-21-9756 E-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp

令和3年(2021年)2月15日発行 右の2次元バーコードから文化情報誌「たわわ」へアクセスできます

